

What is claimed is:

A rotating stamp characterized in that the rotating stamp is configured from a changing print portion case on a top of which a handle is mounted and an outline print case which has a fixed outline print portion on an end face, the changing print portion case has, in a substantially middle portion of lateral sides of the case which are in pairs and face each other, a shaft that is provided between the lateral sides, a plurality of print change dials are rotatably mounted around the shaft in order to movably support a plurality of endless print belts, the endless print belts are suspended on the dial and a belt supporting metallic portion which is provided between both the lateral sides in parallel with the shaft in the same manner, a changing print portion is configured in a belt supporting metallic portion side of the case, the outline print case covers the changing print portion case and is mounted slidably along a longitudinal direction of the changing print portion case, a print face is formed such that the changing print portion and the outline print portion may be a substantially same plane only when impressed further by a spring portion's intervening between the changing print portion case and the outline print portion case.

公開実用 昭和61-145663

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 昭61-145663

⑬ Int.Cl.⁴
B 41 K 1/10

識別記号 庁内整理番号
6951-2C

⑭ 公開 昭和61年(1986)9月8日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 回転印

⑯ 実 願 昭60-29053

⑰ 出 願 昭60(1985)2月28日

⑱ 考 案 者 小 谷 洋 子 大阪市東区玉造1丁目2番28号 三田工業株式会社内

⑲ 出 願 人 三 田 工 業 株 式 会 社 大阪市東区玉造1丁目2番28号

明 細 書

1. 考案の名称

回転印

2. 実用新案登録請求の範囲

頂部に把手を取り付けた変更印字部枠体と、一端面に固定輪郭印字部を有する輪郭印字枠体とから成り、前記変更印字部枠体は対面する一対の枠体側面略中央部に該両側面を橋絡する軸を有し、該軸には複数の無端状印字ベルトを支承するため複数の印字変更ダイヤルを回転自在に取付け、前記軸と平行に前記両側面端部を同じく橋絡するベルト受け金具と前記ダイヤルにて前記無端状印字ベルトを張架して枠体のベルト受け金具側に変更印字部を構成すると共に前記輪郭印字枠体は変更印字部枠体を包接し且つ変更印字部枠体長手方向に沿って摺動自在に取り付けられ、更に変更印字部枠体と輪郭印字枠体との間にバネ部材を介在させることにより、押印時のみ変更印字部と輪郭印字部とが略同一平面となって印字面を形成することを特徴とす

686

る回転印。

3. 考案の詳細な説明

(考案の技術分野)

本考案は、無端状印字ベルトを有する回転印に関するものであり、より詳細には印字文字の変更が極めて容易に行える簡易型の回転印に関する。

(従来技術)

日付印で代表される小型で簡易な回転印は第4図で示すような構造をしている。そして日付を変更するために日付変更ダイヤル17を回転し、無端状印字ベルト23を回転させるには、主枠体61の一側面に回転可能な状態で取り付けられた輪郭印字部29を有する輪郭印字枠体63を開き、印字ベルト23の日付印字部5を解放状態にした後でなければ、日付印字部5が輪郭印字部29の中央印字開口65に束縛されているため不可能であった。

従ってこのような場合、上述したような操作が日々要求され非常に煩わしいばかりでなく、時

687

として輪郭印字部29に塗布されたインキにより手を汚すといった問題もあった。更にまた、前述した操作を頻繁に行う場合には、日付印字部5及び輪郭印字部29が共に可動するものであるため、印字面としての両印字部5及び29の位置関係がずれ、輪郭のみが或いは又日付部のみしか鮮明に印字されないという問題も有していた。このずれの問題に対しては、第5図に示したような機構にて対処していた。即ち、把手3に組み込まれた固定ナット66を解除し、位置調節ナット67を位置調節ダイヤル69の回転操作にて回転させ、主枠体61と変更印字部枠体71との位置関係を枠体71に固定されたネジ9にて調節しようとする機構にて対処していた。しかして、この調節操作も非常に煩わしいものであった。

(考案の目的)

しかして本考案は上述した種々の問題点を解決することを目的とするものである。即ち、本考案の第1の目的は日付け等の印字部の変更の際して輪郭印字枠体の開閉操作を必要としない

簡易型回転印を提供することにある。

本考案の第2の目的は、日付け等の印字部の変更に際し、印字部に塗布されたインキにより手を汚すおそれの全くない簡易型回転印を提供することにある。

本考案の第3の目的は、繰り返し使用においても日付け印字部と輪郭印字部との位置調節を何ら必要とせず常に安定した押印が可能な簡易型回転印を提供することにある。

(考案の構成)

本考案によれば、

頂部に把手を取り付けた変更印字部枠体と、一端面に固定輪郭印字部を有する輪郭印字枠体とから成り、前記変更印字部枠体は対面する一对の枠体側面略中央部に該両側面を橋絡する軸を有し、該軸には複数の無端状印字ベルトを支承するため複数の印字変更ダイヤルを回転自在に取付け、前記軸と平行に前記両側面端部を同じく橋絡するベルト受け金具と前記ダイヤルにて前記無端状印字ベルトを張架して枠体のベル

ト受け金具側に変更印字部を構成すると共に前記輪郭印字枠体は変更印字部枠体を包接し且つ変更印字部枠体長手方向に沿って摺動自在に取り付けられ、更に変更印字部枠体と輪郭印字枠体との間にバネ部材を介在させることにより押印時のみ変更印字部と輪郭印字部とが略同一平面となって印字面を形成することを特徴する回転印が提供される。

(考案の好適態様)

本考案の好適態様を以下の図面に従って説明する。

第1図は例えば日付印で代表される本考案の回転印の一具体例であり、変更印字部枠体1と輪郭印字枠体3との間であって印字部5が押印時に圧縮コイルバネ7を嵌入する状態で印字を行うものである。第1図(a)は変更印字部枠体1及び輪郭印字枠体3夫々の一側面を切欠き内部の構造をわかり易くした正面図であり、第1図(b)はこの具体例の側面図である。

まず変更印字部枠体1から説明する。四角筒

容器を逆にしたような形状を有する変更印字部
枠体 1 の頂部にはネジ 9 で把手 11 が取り付けら
れている。また枠体 1 の対面する一対の枠体側
面 13, 13 略中央部には該両側面 13, 13 を橋絡す
る軸 15 を有している。そしてこの軸 15 には複数
の日付変更ダイヤル 17 がその一部が枠体 1 に設
けた溝より外側に臨出し、且つ回転自在に取り
付けられている。同じく側面 13, 13 の端部には
前記軸 15 と平行に両側面 13, 13 を橋絡するベル
ト受け金具 19 が取り付けられている。そしてダ
イヤル 17 とベルト受け金具 19 にて、年、月、日
の印字 21 を夫々その表面に有する無端状印字ベ
ルト 23 を張架して日付変更機構として、ダイヤ
ル 17 を逐次回転することにより印字部 5 の日付
を変更自在なものとしている。更に、変更印字
部枠体 1 の印字部 5 側開口部においては、4 つ
の側壁を屈曲させ、圧縮コイルバネ 7 の一方端
を支持するための支持部 25 を形成している。

次に輪郭印字枠体 3 について説明する。箱状
或いは略門字状の形成を有する輪郭印字枠体 3

の底面には、座金27を介して氏及び又は部課名等を刻印した輪郭印字部29が取り付けられている。そして枠体3の底面、座金27及び輪郭印字部29には、押印時において印字部5が嵌入してくる開口31が設けられている。

次に前述した変更印字部枠体1と輪郭印字枠体3との摺動機構について説明する。変更印字部枠体1の側面13の下端部略中央にはピン33が取り付けられ、該ピン33を輪郭印字枠体3の両側壁に設けられた溝35と係合する状態で変更印字部枠体1と輪郭印字枠体3とが取り付けられている。そして両枠体1, 3の間には印字部5を取り巻く様な状態で圧縮コイルバネ7が一方端を変更印字部枠体1の支持部25に、他方端を輪郭印字枠体3の底面内側に指示され、印字部5の日付変更が可能な状態を維持するように、両枠体1, 3を付勢している。かかる構成において平常時においては印字部5が輪郭枠体3の内部に位置し、押印時においては、バネ圧に抵抗しながらバネ7及び開口29を嵌入して、輪郭印

字部29と印字部1とが一致し印字面を形成することが可能となる。そして押印後はバネ7の復元力により元の状態に復元する。

この具体例では両枠体1, 3を係合しているピン33は、ベルト受け金具19内を貫通し変更印字枠体1の両側壁13, 13を橋絡するような状態に取り付けられているが、単に側面13に取り付けただけの構成であってもよい。

第2図は本考案の他の具体例であり、第1図の具体例における圧縮コイルバネ7に代えて引張コイルバネ41を用いた例である。この例では変更印字部枠体1'を略門字状として、また輪郭印字枠体3'を頂部に把手11を貫通する開孔43を有し且つ変更印字部枠体1'を内包するような箱状として構成されている。この例における摺動機構は、内接された変更印字部枠体1'が輪郭印字枠体内をピストンのように摺動するものであり、両枠体間の支持は、輪郭印字枠体3'の頂部内側面にコイルバネ41を取り付け、当該バネ41の他端を変更印字部枠体の頂部外面に取り付け

ることによりなされている。従って、かかる構成を有する具体例においては、押印時にコイルバネ41を引張しながら印字部5を輪郭印字枠体3'の下面側に有する開口31に嵌入させ印字部5と輪郭印字部29とが一体と成って印字面が形成されることとなる。押印後はコイルバネ41の復元力で元の状態にもどることができる。

更にこの具体例では、日付変更ダイヤル17を備えた変更印字枠体1'が摺動するものであるから、ダイヤルを臨出させるための溝を輪郭印字枠体3'に設ける必要があり、この際ダイヤル17の変位量の大きさに応じて長めの溝とすることが重要である。

上述した第1及び第2の具体例において印字部5を第3図に示したような構造に変更することもできる。この状態は略冂字状の受け金具51を第1図及び第2図に示した態様とは異なり固定せずに、変更印字枠体1,1'の両先端部を橋絡固定させて取り付けした橋絡金具53に対し弾性ゴム等の弾性部材55を介して無端状印字ベルト23

の張力により把持する。かかる構成により押印時に印字部 5 自体も変位可能となる。従って弾性部材 55 の弾性強度を選択することで、摺動する輪郭印字部 29 と印字部 5 との押圧力を等しくし、より均一で良質な印字が可能となる。以上詳述したように簡易な構成で常時印字部変更自在の状態に保持し、押印時のみ輪郭印字部と協合して印字面を形成する本考案を採用すれば、印字変更の際の煩わしい操作を少なくし、しかも手を汚さず行うことができ、日付及び輪郭の両印字の位置関係がずれることによる印字ミスも全く解消できる。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本考案の回転印の一具体例を示す図であり、(a) 図は部分切欠き正面図、(b) 図は側面図を示す、

第 2 図は本考案の回転印の他の具体例を示す図、

第 3 図は本考案の回転印に好適に適用される印字部断面図、



第4図は従来例としての回転印を示す斜視図
及び第5図は従来例としての回転印に適用され
ている印字部位置調節機構を示す模式図である。

図中、引照数字は以下の内容を示す。

1, 1' . . . 変更印字部枠体

3, 3' . . . 輪郭印字枠体

5 . . . 印字部 7, 41 . . . コイルバネ

11 . . . 把手 17 . . . 日付変更ダイヤル

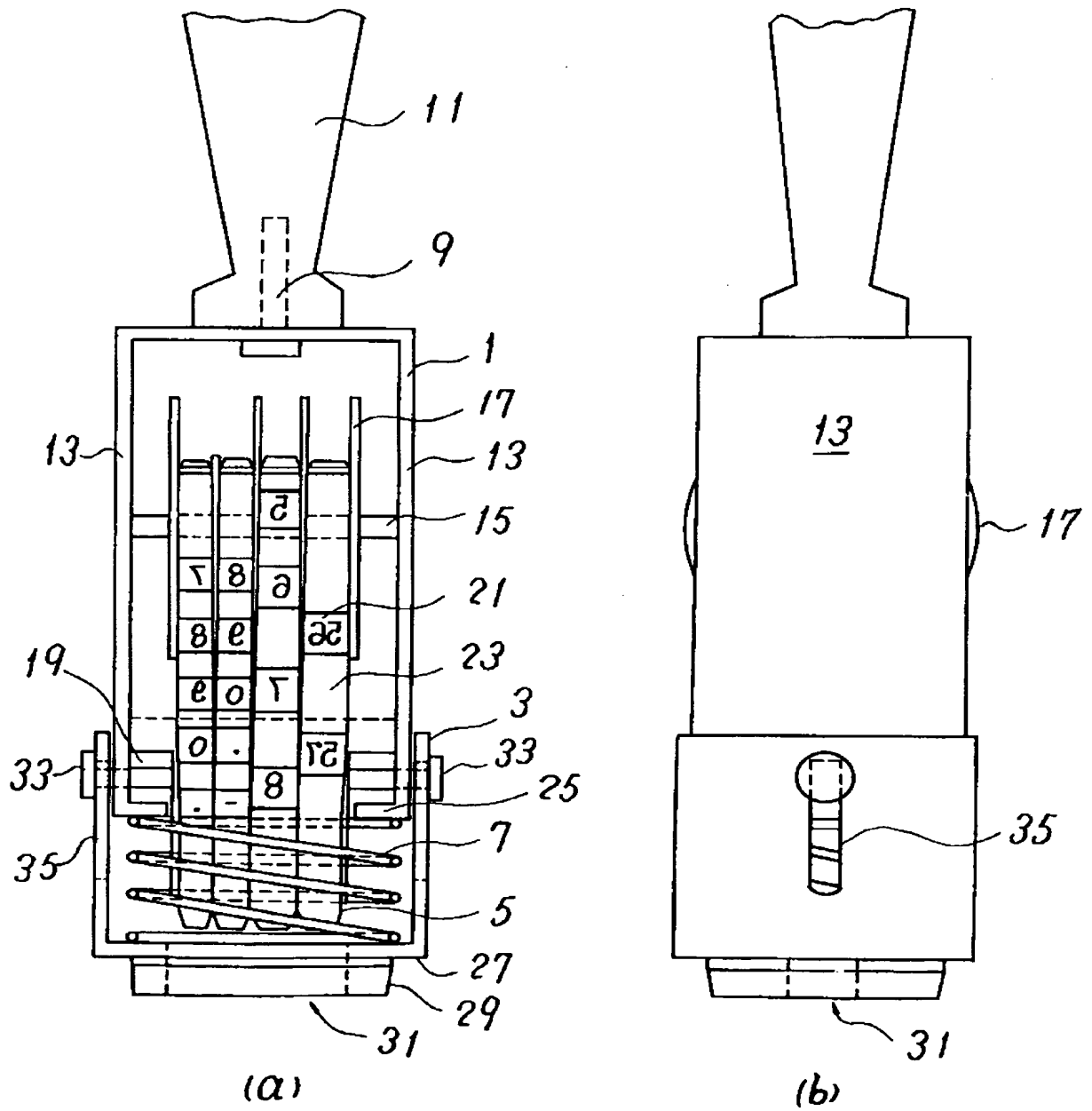
23 . . . 印字ベルト 29 . . . 輪郭印字部

実用新案登録出願人

三田工業株式会社



第 1 図

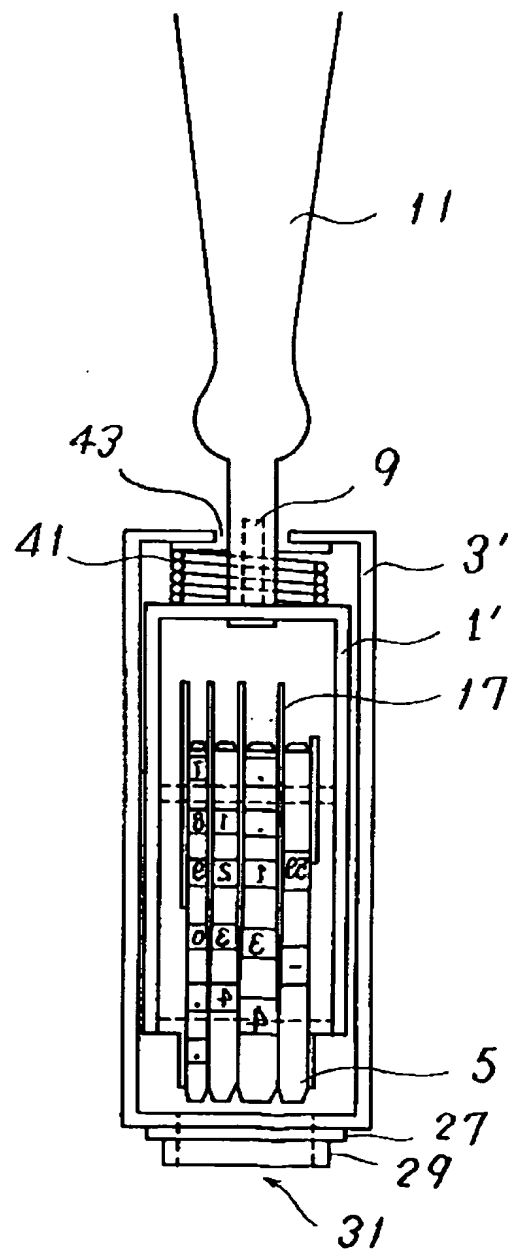


697

實用新案登録出願人 三田工業株式会社

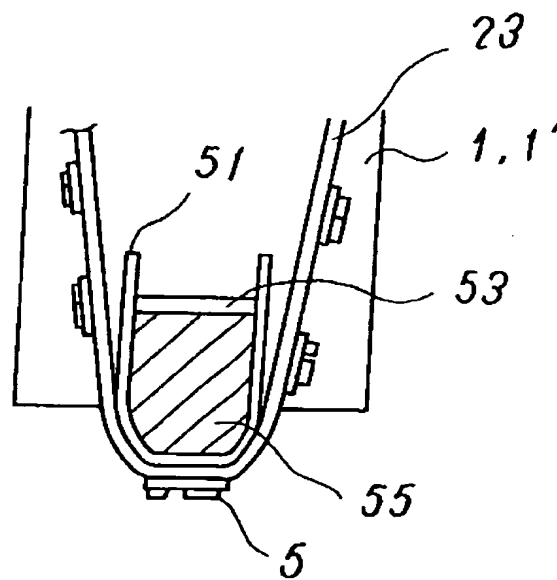
公開 61-145663

第 2 図



698

第 3 図



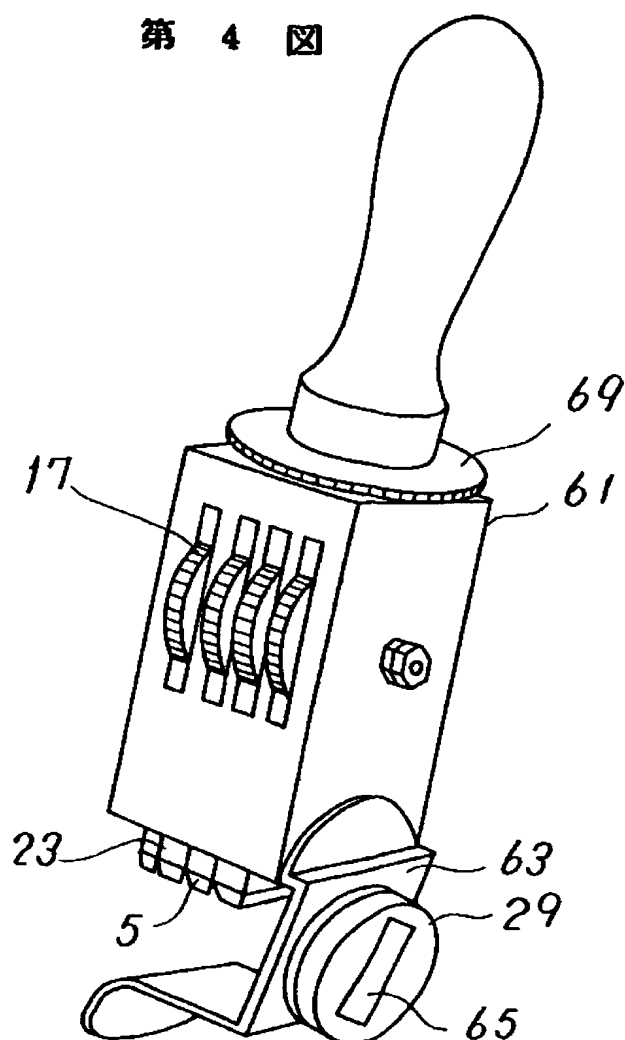
699

實用新案登録出願人

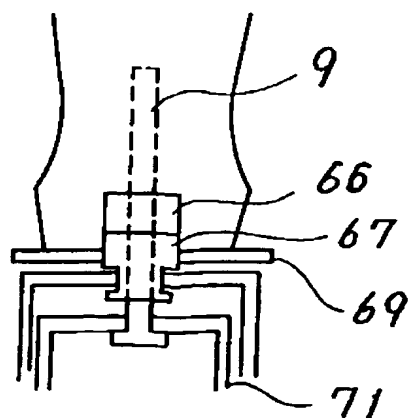
三田工業株式会社

昭和 21 年 1 月 1 日

第 4 図



第 5 図



700